

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270201056		
法人名	医療法人仙知会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地 (電話番号)	〒036-8302 青森県弘前市高杉字五反田173-7 (電話) 0172-99-1188		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 11月 1日	評価確定日	平成 20年 1月 3日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17人, 非常勤 人, 常勤換算 16.02人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造平屋建 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	5,375 ~ 冬季6,373 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 750円		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	区分変更中	1 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	弘愛会病院・小泉歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

弘前市の郊外に医療法人仙知会により設立され、法人の所有する有料老人ホームや、知的障害者等の施設に併設されている。高杉地区の中心地に位置し、近くには地域の集会所や、スーパー、派出所などがあり地域の中の社会資源としての存在がうかがわれる。
職員一人一人が、施設の理念にそって認知症介護に取り組みされており、入居者の処遇にあたっている。
また、入居者の方は能力に応じて近くの温泉施設瑞風園に出かけるなどもされている。法人の敷地は広く、周囲に遊歩道をつくり、散歩や運動の機会に役立てている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事テーブルの高さや、職員の声がけ時のトーンなどについて検討され、改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	地域密着型のサービスとしての理念の見直し、休憩スペースの確保など建物の問題について困難な対応についても取り組みを行う意欲がみられる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 介護に関する状況報告、行事などの活動報告等を説明し、出席者の質疑応答を受けている。又、包括支援センターの職員から他事業所での例などが紹介され、課題解決に役立てるようにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 家族等の意見を苦情窓口のポストを設置したり、来所時に面会し意見を引き出すよう声がけされたりしている。何か意見等があったときは管理者がその都度対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 温泉施設や洋品店、理髪店など、の利用など地域のコミュニケーションの場を利用者が気軽に利用できる体制があるが、今後は、地域住民の一員としての活動や連携をより進めてほしい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で意見を出し合って理念を作りあげ、意識を高めている。	○	地域に根ざしたサービスとしての理念を作り上げ、関係者との継続、地域生活の継続を支えるために柔軟な支援が出来るような内容のものとなるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設に掲示され、ミーティング中で復唱され全職員で共有されている。又、日々の処遇にあたって課題が生じたときにはその対応に対しての源となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の洋服屋の訪問や、敬老会などの際の訪問はあるが、地域住民との交流は減少傾向にある。	○	町内会や地域の集まり、イベントなどに参加し、地域に向けて積極的に情報を発信し、交流が図れる様期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価、及び自己評価を実施し、サービスを振り返る機会と考え職員の意識も高めておられ、改善項目に取り組む努力されている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に行われており、包括支援センター職員の参加、民生委員の参加も呼びかけ開催されている。議事録も整理され施設運営に生かされる様努力している。</p>		<p>議事内容についてはあまり活発とはいえないので、報告から課題をつくり、参加者から意見が出されるような体制を作りたい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者と情報の交換を通じて連携を図り、課題解決等の為に生かしている。市町村職員と入居者が面談することもある。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>今後、利用者にとって必要となる制度として理解しているが具体的に職員が制度について学ぶ機会がまだ少ない。</p>	○	<p>今後、積極的に研修会等に参加し、職員が資質を向上させることが期待される。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は虐待の防止について周知しており、日常的に意識し、防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書の内容について十分に説明し、利用者や家族の疑問点については理解していただき、契約している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、さくら便りを発行し個別に利用者の状態について記入して家族に送付している。また、状況に応じて電話などで近況報告などを行って連携を図るよう努めている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見や苦情の表明方法は、あらかじめ説明し、重要事項説明書にも記載している。玄関部分には自由に意見が出せる様意見箱が設置され運営に反映するよう努めている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動などの際は、同施設での実習を1ヶ月程度おこない利用者の精神状況、身体状況を把握してから通常の勤務形態とし、利用者のダメージを最小限にする様配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、研修を受けた職員が中心となって内部研修を行い、職員の資質向上に努めている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の必要性は理解しており、職員も他の同業者の体制についてなど興味を持っているが、相互訪問等の機会が少ない。	○	運営者の努力により、関連事業者との学習会や交流を持つ機会をつくり、サービスの質の向上、職員の育成にも役立つ事が出来るよう期待します。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の生活歴を把握し、趣味や特技が活かされるよう配慮し、家族の協力も得ながら、相互に工夫してサービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作りや編み物など、声がけしながら一緒に行い、良好な関係を築くよう努力している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>暮らしの中で共に共感出来る関係づくりに留意しており、スタッフ間で互いに協議しながら穏かな生活が出来る様声かけしている。</p>		<p>入居時の生活暦等のアセスメントが不足している場合がみられ、初期情報としてくわしく収集し、本人本位の生活のために有意義に活用されることが期待されます。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントについてはセンター方式を一部利用され、3ヶ月に1回見直し、担当者会議も開催され、本人本位のサービス計画が作成されて介護の資質向上に努めている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員で話し合い、モニタリングにより状況の変化に応じて、介護計画が見直しされている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>住居環境については、休憩スペースや、家族の来所の際などにゆっくりくつろげる場所を検討されている。また家族の要望に応じるための支援体制がみられる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族から意向を確認し、かかりつけ医は柔軟に対応されており、事業所とかかりつけ医についてもあらかじめ家族と相談しながら対応されている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りに関する指針を作成し、あらかじめ、家族等に説明している。又、実際に重度化した時は母体法人の看護師や主治医と相談し、家族に意向を確認し、対応している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者に対しては尊厳を傷つけない様、声がけなど配慮されている。マニュアルも作成し、職員が閲覧している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>園庭には遊歩道が整備され、利用者の意向を確認し、散歩など行っている。又、庭のベンチに座り喫煙している方も見られ相手の希望に合わせて支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の能力に応じて後かたづけなど一緒に行っており、作業がうまく出来るように見守りながら支援している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は決められているが、希望に合わせていつでも入浴出来る体制になっている。また、利用者の希望に応じて午前浴や午後浴、汗をかいた時など必要に応じての入浴も行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の身体状況に合わせて出来る事を見出し(ごみ捨て、茶碗拭き)生活の場面で役割をもって行える事を支援されている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>年間行事計画を作成し、ねぶた祭り参加をはじめ遠出の外出を盛り込んでいる。また、敷地内、地域内を散歩し、果物、くるみ取りなど行えるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一般的な身体的拘束について職員も周知しており、拘束しない方針で処遇にあっている。	○	介護保険法指定基準における禁止での具体例などを職員が周知する事でよりよい処遇が提供される事を期待します。
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアを実践している。玄関については帰宅願望の強い利用者がおられ安全確保上、やむをえず行っているが、原則として掛けない方法で支援を考えている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練は実施され、今回は夜間想定での訓練も計画され災害時の対策に備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量、水分摂取量が記載され利用者の健康状態を把握し、全職員が確認出来る様なシステムを作って支援している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが作成され管理されている。夕食後、毎日まな板、布巾を消毒しテーブルなどはアルコール消毒して感染予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地周辺は季節を感じさせる木々があり緑に囲まれている。共用空間は利用者の食事用のテーブル、椅子が中心であり、それ以外に利用者がくつろげる場所が少ない。		憩いの空間の場を設け更に心地良く生活出来る事を期待したい。
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンス、装飾品などを持参することができ、本人が安心して過ごせる様配慮している。		

 は、重点項目。